



令和7年度 第2回 にぎわい部会（令和7年7月28日開催）

委員からのご意見・質問と区の考え方

番号	委員	意見・質問等	当日の回答	対応(区の考え方)	担当
1	庄野委員	<p>【大阪市公式LINEアプリの多言語化について】</p> <p>いろいろな国の方がお住いということのなかで、大阪市の公式LINEアプリが大変素晴らしい。大変素晴らしい情報がたくさん詰まっている中で、どこまでの言語を翻訳して載せられているのか。費用がかかるかもしれないが、多くの国の言葉で公式LINEアプリを見れるようにしていただけたらと思う。</p> <p>現状、今何カ国語くらいされてるのか。または、西成区の区政だよりについては何カ国語対応しているのか。</p>	<p>観点がずれるかもしれませんが、西成区役所の1階にフロアの案内のチラシを置いておりました、日本語・英語・中国語・韓国語・ベトナム語の5つでご案内させていただいております。</p>	<p>大阪市公式LINEアプリについては、現在、「日本語・英語・中国語・韓国語・スペイン語・ベトナム語」でご確認いただけます。</p> <p>西成区広報紙「にしなり我が町」については、現在、日本語のみの発行となっておりますが、西成区ホームページについては、「日本語・英語・中国語・韓国語・ベトナム語」等でご確認いただけます。</p>	総務課
2	伊藤委員	<p>【町会加入促進パンフレットについて】</p> <p>すごく立派なパンフレットを作っているが、これ読んでも正直「だから？」というふう思う。せつかく作るのであれば「なんか、入りたいな。会費払ってでも入りたいな。」と思ってもらえるようにもう少し工夫されてもいいのかなと思う。</p> <p>イベントとかもたくさんされているのであれば、例えばちょっと楽しそうな雰囲気の写真や内容を載せて、自治体とは離れるかもしれないが、加入していただければというような、もう少しやり方があっていいのかなと思った。特に英語版の方は文字が多く、読んでいても分かるような分からないような。自治会というのはあまり外国には無いので、興味を持ってもらうにはちょっと難しいのではないのかなと思った。</p>	—	<p>区役所としましても、町会への加入世帯が増えるように未加入世帯への周知に力を入れて取り組んでおり、こういった取組を広く知っていただきたいと考えております。</p> <p>いただきましたご意見は次回のパンフレット作成時やホームページにおける情報発信等におきましても参考にさせていただきます、より効果的な広報の充実に努めてまいります。</p>	市民協働課
3	小林委員	<p>【西成区における外国人人口の推移について】</p> <p>人口の減少を見ていると、西成区は99.1%ということで、ほか23区と比べた場合、これはかなり良い方に入る気がするが、どうなのか。</p> <p>直近5年くらいの減少率はどれくらいか。</p> <p>ほかのところはもっと増えている地域もたくさんあるのか。</p>	<p>西成区の人口はここ数年約10万5,000人でほぼ横ばいで、24区でいいますとだいたい真ん中より少し下くらいです。</p> <p>中心区だとタワーマンションができていまして、400～500人オーダーで1棟1棟できますので、そういうところは多分11～12万人になっているところもあるのかなと思います。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・令和7年3月末現在の住基人口を令和2年3月末現在の住基人口と比較すると、24区中、13区で増加し、11区で減少している。 ・同期間中人口増加率が最も大きかったのは中央区(115.5%)で、最も小さかったのは大正区(95.4%)である。 ・西成区の同期間の人口増加率は99.1%で、24区中18番目である。 ・同期間の大阪市全体の人口増加率は100.6%である。 	総務課

4	上田委員	<p>【町会加入促進チラシについて】 外国の方が、この文字たくさんのチラシを紹介をされても、あまりよくわからないと思う。このチラシが区役所の市民協働課の予算で、作られているのは重々わかりながらも、せっかくこういう外国の人に向けて西成区のことを紹介しようと思ったら、外国の人にとって有益な情報、例えば病気になった時はどこに連絡したらいいとか、子どものことで相談したい時はどこがいいとか、外国の人たちのコミュニティの場所がここにあるよといったような情報が必要だと思う。 あるいは年に一回、西成区では多文化共生フェスティバルをしていますよとか、そうした様々な情報がもうちょっと一元化されるような広報物があって、そしてその中でも町会という機能もあるよというような紹介がされてもいいのかなと思った。</p>	—	<p>区役所としましても、町会への加入世帯が増えるように未加入世帯への周知に力を入れて取り組んでおり、こういった取組を広く知っていただきたいと考えております。 いただきましたご意見は次回のパンフレット作成時やホームページにおける情報発信等におきましても参考にさせていただきます、より効果的な広報の充実に努めてまいります。</p>	市民協働課
5	上田委員	<p>【地域活動の新たな担い手について】 やっぱり新たな担い手ということで子供たちだと思ふ。子供たちの出番がたくさんあるような企画を大人達が準備していきたいと思う。お祭りでもいいと思うし、外国人を案内するでもいいし、そうしたチャレンジですね、西成区ぜひやっていきたいと思う。</p>	<p>現在、小学校、中学校で、「町会ってなあに？」という冊子を配ってそれを教材にしている。小さい頃からそういう町会組織のことにふれることがポイントである。 餅つき大会や夏祭りなどの地域の行事に中学生を派遣してそこで主催者側として活躍してみるという経験がすごくわかりやすく、実際に行っている区がある。大人達が大変な思いをしてやっている町会の大事さをつかんでもらえるととともに、大人になって、町会に入ろうかとなったときに非常にハードルが低くなるのではと思っている。 町会のメリットは、いざという時に命が助かる、認知症になっても地域で暮らせる、この2つをかなりのところで実現できることである。また、ゆるやかにつながること、窓口を広めにしてハードルを下げることも大事であると改めてわかった。 さらに、西成は、土地が低い所もあるし、木造家屋も多いので、防災力と地域力を上げていかないといけないと思っている。命を守るためには、町会中心かもわからないが、NPO、そのあたりが連携して、地域のつながりづくりを進められたら、と思っている。</p>	当日の回答のとおり	市民協働課
6	小林委員	<p>【連合町会の区割りについて】 連合町会の区割りみたいなものがあると思うが、人口は昔に比べたら減っては来ているなかで、この区割りみたいなものはこれからも維持されていくものなのか。例えば合併であったりだとか、むしろ人が減っているのだから、それは妥当な判断だと捉えられるが、どうか。</p>	<p>各町会においては、それぞれ昔からやってきた方法や、地域の取組もあると思うので、なかなか、人が減ってきて、担い手がいなくて大変、だからどこかと合併してということは、みなさん積極的ではないかなと思われまふ。 ある地域においては、人口がどんどん減って来ているということも現状出てきている状況なので、そういうことも必要かなというふうには考えておりますが、積極的に役所が動くということにはならないと考えております。</p>	当日の回答のとおり	市民協働課

委員からのご意見

議論のテーマ「地域活動の新たな担い手の確保について」

・町会加入率については、西成区内で地域により差があると思うので、地域別の率を見たい。

・若い層にとって、町会は、地縁の重たい、なかなか厳しいことが多いという感覚もあるのが事実である。ただ、こども食堂や地域のボランティア活動をしている団体やNPO等で活動しており、地域づくりへの気持ちはあるという状態があると思う。そのため、町会・自治会に入らなくても、(若い層の方が)こうしたまちづくりに関わっていることがもっと見えてきたり、こうした活動と町会・自治会の活動との間にゆるやかなネットワークができるような、もう少し広がりのあるまちづくりのような観点を組み入れてもいいのかなと思う。

・資料1-2は町会や自治会のことが紹介されているが、ここにプラスして、さまざまな食堂の情報や地域づくりしている団体の記号が入っていると工夫してほしい。そのようにして、さまざまな層が(地域に)関わっていることが西成では実際行われているので、それが見えると良いと思った。

・今の町会を担っている人たちに外国人の方たちを受け止める力があるのか、結構酷なことなどで、コミュニケーションもすごく難しいと思う。今の町会の枠組み自体もちょっと疲労していると思うので、仕組みを見直すなどいろいろと考えていった方がいいと思う。

・別の自治体での例であるが、町会・自治会の組織は、若い層には重たく厳しい状況なので、それならば、例えば社協とかが動き、地縁組織ではない人たちとゆるやかにつながる形や仕組みをつくりたいということに関わったことがある。その例では、子どもたちがつながるためであれば、忙しい若い人たちが活動に入ってくる状況があった。そのような場を細かく作り、社協が見つないでいた。

・町会費を集める係をした際は、地域の人「何をしているかわからない」や「お金だけ集められる」というダイレクトな意見聞くことがあったが、町会が何をしているかを伝えることが大切で、町会だけでなく、ゆるやかなつながりのなかで、生活に根ざした活動が行われ、それらを認識してもらえれば良いと思った。

・大阪市のLINEアプリは大変すばらしいが、多くの国の言語で見れるようにしてほしい。

・町会加入のパンフレットは、文字が多く、特に英語版は外国人に伝わりにくいと感じた。町会に入りたいと思わせる工夫が必要ではないかと思う。

・英語のチラシの件で、町会の紹介だけでなく外国人の方に有益な情報(病気になったときのことや子どもの相談など)も必要であると思う。

・中国人が西成で事業を展開し、発展を遂げているが、それを嫌う人もおられる。様々な考え方があるとは思いますが、共存共栄という事が一番大事だと思う。西成区民がどうやって彼らと一体化となって西成を盛り上げるかという問題に発展していかなければならないと思う。西成区はインターナショナルの部分のまちづくりを進める必要があると思う。

・新たな担い手の確保ということではやはり子どもたちであると思う。子どもたちの出番がたくさんあるような企画を大人達が準備していきたいと思う。

・文化が違う中で、広報物というか情報ツールを作るのは難しいと思うが、西成区の人口が、99.1%で留まっているというのは、外国の人が来てくださっているからだと思うので今後もそれは期待されることだし、ここで家族を持たれたりしていくと、ここで一緒に根差して暮らしていくことになると思うので、なるべく早く情報を外国人の方にお伝えできるテクニックを鍛えていく必要があると思う。

・万博が思いのほか観光客の方が入っているし、もう少し西成にお金を落とさせていただいて。商店街が元気がないので、外国の方を呼び込むような何かをやったらいいいのでと思う。

・いわゆる、あいりん地域は、よそからやってきた方が多い。しかも大人になってから、かつ独身男性の方が多地域である。単身の高齢の男性ともなれば町会に1人で入ることはそうそうなかったりする。
・釜ヶ崎支援機構では、近隣地域の自治会などと一緒に手を組んで、例えば公園の掃除などで働き手が足りなくなったときに、自治会の活動のお手伝いに行っている。釜ヶ崎支援機構で関わっている若年層、高齢者、いわゆる生活困窮者、生活保護を受けている方などが、自治会の方と一緒に公園の草抜き、ごみ掃除をすとか、あとはイベント(町会のお祭り)のお手伝いをするなどして、地域とつながる機会を作っている。これはこの地域独特の関わり方かなと思う。
それで素直に自治会の方も喜んでくれ、行った時にはお菓子やジュースをいっぱい買ってきて「みんなこれ食べや、ありがとうな」みたいな感じで受け入れてくれる。横からやってきて、いろいろあって孤立している人たちもすごく温かい人とそういう関わりはなかなか大人になってから作ることはできないので、そういう機会を作れるのですごく良いきっかけだなとは思っている。

※今回の区政会議では、委員に身近なテーマで様々なご意見をいただきました。いただきましたご意見は、今後の区政の参考とさせていただきます。